



第3回
SDGs Family conference

SDGs 家族会議 in FUKUOKA

笑顔あふれる未来のために何ができるだろう

報告書

2023年7月～12月



家族で福岡の未来を考え
行動につなげよう

わたしたちの生活をこのまま続けると地球はどうなるのでしょうか。
世の中の人々が安心して暮らすために、わたしたちができることは何でしょうか。

SDGs家族会議 in FUKUOKAは家族が持続可能な社会の実現について何ができるのか
を考え「アイデア」を発表する講座+ワークショップです。2023年度は17の目標が相互に関
連していることを理解するためのゲームやもの作りなどの体験、他者の考えを理解し自分の
考えを他者に伝えるチカラをつけるためのディベートも実施しました。家族は講師、ファシ
リテーター、サイエンスコミュニケーター、学生サポーターと話し合い、発表のサポートを受
けながら2030年の未来像を描きました。



もくじ

SDGs家族会議の目的	01
ごあいさつ	02
プログラム構成の考え方	03
SDGs家族会議の概要	04
各回のようす：福岡の未来を一緒に考えていくメンバー	05
各回のようす：第1回	06
各回のようす：第2回	07
各回のようす：第3回	08
各回のようす：第4回	09
各回のようす：第5回・第6回	10
各回のようす：第7回最終発表会	11-14
各賞について／審査員	15
学生サポーターからひとこと	16
さいごに	17
事務局	18

ごあいさつ

地球の温暖化が進み、水害などの大規模災害が増えています。
このため温暖化の原因となる二酸化炭素のはい出を減らす努力が続けられています。
そのなかで、二酸化炭素のはい出を減らすには、教育・経済・生物多様性など、
多くの課題をいっしょに解決しなければならないことがわかりました。
そこでSDGsの17目標を達成するために知恵をしぼっています。
SDGs家族会議 in FUKUOKA2023では、小中学生とその家族と一緒に、
SDGsの目標達成に向かって、私たちに何ができるのかを考えました。
この報告書は参加者のみんなの学びの記録です。
参加者は、九州大学伊都キャンパス生物多様性保全ゾーンを見学し、
開発と保全が両立できることを学びました。
また、プラスチックごみの問題、チョコレートの背景にある問題、校則問題などについて
先生方から学び、学生サポーターからアドバイスを受けながら、
自分達で調べ、考え、話しあって提案をまとめました。
とくに、一人ひとりができることを提案するために知恵をしぼりました。
発表会でみんなが提案してくれたアイデアはとても希望がもてる内容でした。
この報告書で学びと提案をふりかえりながら、みんなのアイデアを実行にうつし、
協力の輪をひろげていきましょう。



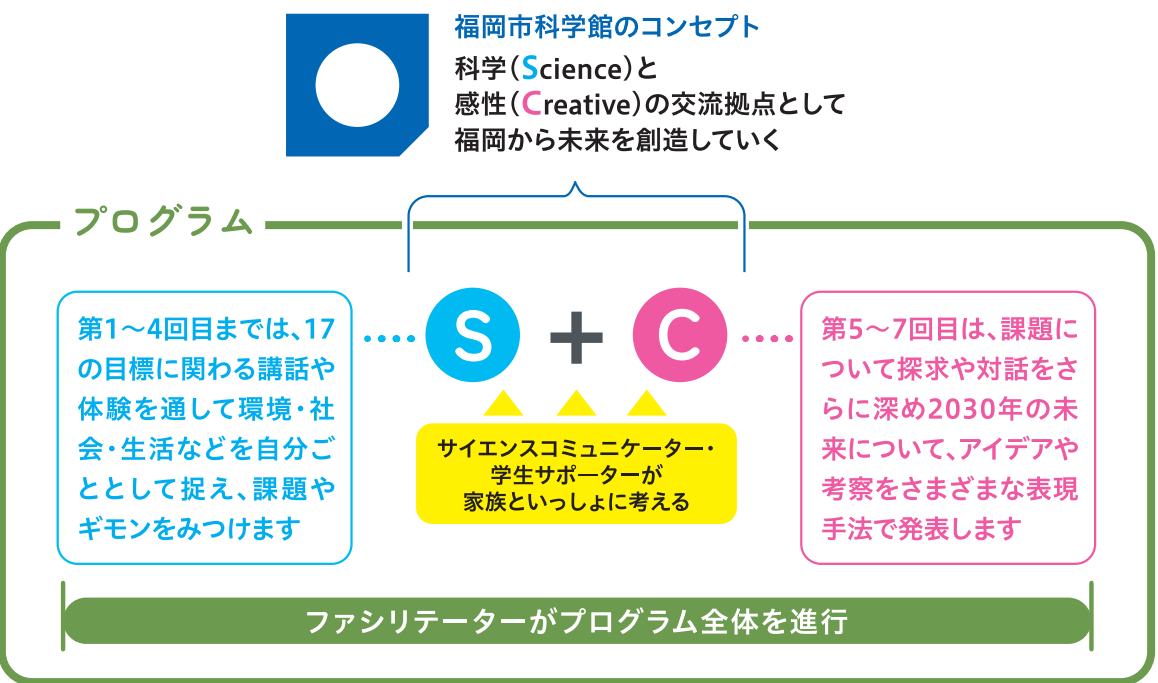
福岡市科学館館長 矢原徹一

プログラム構成の考え方

コンセプト

家族で福岡の未来を考え行動につなげよう

プログラムの構成



会議で大切にしたいこと

仲の良い家族でも、いざ「会議」を行うとなると結構難しいものです。

特にこの「SDGs家族会議」のように「社会課題を考える」ような場合、どうしても知識や経験が豊富な保護者が会議をリードしてしまい、子どもが自由に考え伝えることができなくなってしまう恐れがあります。

そこでこの会議では、7つの「大切にしたいこと」を設けて家族全員が意見を出せるように進行了ました。

- ① 最後まで話を聞く
- ② 否定や断定はしない
- ③ 考えは変わっていい
- ④ 答えはひとつではない
- ⑤ アイデアをつなげる
- ⑥ 「これでいい」より「これがいい」
- ⑦ 「べき」より「したい」

SDGs家族会議の概要

開催日程	9月17日(日)～12月17日(日)全7回	申込方法	SDGsの何に興味があるかを書いて科学館ホームページから申込
対象者	小学校4年生～中学生を含む家族 ●持続可能な社会に興味・関心がある ●2030年の明るい未来を望んでいる ●家族で共通の目標を達成したい	申込受付期間	8月1日(火)10:00～9月5日(火)17:00
		参加費	3,000円/家族(交通費・材料費別途)

講師	矢原 徹一 : 福岡市科学館館長 九州大学大学院理学研究院 名誉教授 西村 俊彦 : 福岡市科学館顧問 SDGs家族会議審査委員長 江口 久美 : 九州大学持続可能な社会のための決断科学センター特任助教 九州オープンユニバーシティ研究部研究員 高木 正太郎 : 福岡SDGs協会代表理事 しばた みなみ : アーティスト/描いてつくるヒト 後藤 富和 : 福岡県弁護士会校則プロジェクトチーム委員 竹内 太郎 : 九州オープンユニバーシティ学術研究員
----	---

企画・ファシリテーター 坂口麻衣子 : ワークショップユニットnina nino

※敬称略、順不動

スケジュール

第1回	テーマ: 17の課題を知る・意見交換し多様な価値観に触れる 講話+ワークショップ+自己紹介 9月17日(日)10:00～12:00 場所: 福岡市科学館 交流室1・実験室2 講師: 高木正太郎 ファシリテーター: 坂口麻衣子・江口久美
第2回	テーマ: 九大の森で持続可能な開発を考えよう 講話+フィールドワーク 10月1日(日)10:00～13:30 場所: 九州大学伊都キャンパス・九大の森 講師: 矢原徹一・竹内太郎 ファシリテーター: 坂口麻衣子・江口久美
第3回	テーマ: 身近な海から地球環境問題を考える 海洋ごみでアート作品をつくろう ワークショップ+対談 10月15日(日)10:00～12:00 場所: 福岡市科学館 実験室3 講師: しばたみなみ・K.K ファシリテーター: 坂口麻衣子・江口久美
第4回	テーマ: ブラック校則とフェアートレードから見えないつながりを知ろう 講話+ディベート 11月5日(日)10:00～12:00 場所: 福岡市科学館 交流室1 講師: 竹内太郎・後藤富和 ファシリテーター: 坂口麻衣子・江口久美
第5回	テーマ: 2030年の未来像を考えよう 発表準備 11月19日(日)10:00～12:40 場所: 福岡市科学館 交流室1 ファシリテーター: 坂口麻衣子・江口久美
第6回	テーマ: 2030年の未来像を表現しよう 発表準備 12月3日(日)10:00～12:40 場所: 福岡市科学館 交流室1 ファシリテーター: 坂口麻衣子・江口久美
第7回	テーマ: 2030年の未来像を発表しよう 最終発表会 12月17日(日)10:00～12:40 場所: 福岡市科学館 サイエンスホール ファシリテーター: 坂口麻衣子・江口久美

※敬称略、順不同

福岡の未来を一緒に考えていくメンバー



大学生サポーター



中学生サポーター



※五十音順

2023/9/17(日) 10:00～12:00 場所：福岡市科学館 内容：①講話 ②ワークショップ ③家族の自己紹介

SDGsってなんだろう？ 親子で分かれて17の課題を知ろう！

よく耳にするけど、実はよく分かっていないSDGs。
なぜこの世界にSDGsが必要なのでしょう？
初回は17個のゴールを知るきっかけづくりの回でした。
家族が親と子に分かれ、子どもはカードゲームを通して楽しく学び、
親は別室で「家族会議」を行う際のルールを確認した後、子どもたちに残したい未来について考えました。
最後に7家族の自己紹介を行い、ワクワクドキドキなSDGs家族会議の幕開けです！

①講話 「私たちにできること」カードゲームで学ぶSDGs



講師
高木 正太郎 先生

SDGsがなぜ国連で採択されたのかというと、地球温暖化、自然災害、教育の格差といった社会問題、環境問題を解決するためには、世界全体で共通課題として取り組む必要があるからです。例えば、2000年の成人（15歳以上）の平均不識字率は30%と高かったんですが、世界が丸となってこの状況を良くしようとした結果、現在は15%にまで減少しています。
世界の問題を解決するため、まずはSDGsについて知り、できることから始めてみましょう。



まずはSDGsの概要説明

②ワークショップ SDGsカードゲーム

2030年の「人生のゴール」と「世界のゴール」を達成できるかをSDGsカードゲームを通して体験しました。子どもたちは最初、自分の利益となる経済、時間のカードを集めていましたが、次第に世界の状況をよくすることを考えるようになっていきます。世界はつながっています。「将来になりたい自分」になるには、地球の「経済・環境・社会」のバランスを同時に考える必要があることがわかってきました。



相談しながらカードの取り引き



SDGsカードゲーム

②ワークショップ 子どもたちに残したい未来とは？

3つのグループに分かれてワークショップを行いました。今、自分にできる行動が17目標のどれに当てはまるかを付せん紙に書き出し、多かった3つを特に気になる目標として設定。その目標に関連する「子どもたちに残したい未来の姿」を話し合い、発表しました。今回の会議が子ども主体ではなく親と子が対等で、全員が自分の問題として考えるものだという取り組み方を確認する機会にもなりました。



家族会議の心得を学ぶ保護者たち



未来を想像しながらブレインストーミング

2023/10/1(日) 10:00～13:30 場所：九州大学伊都キャンパス・九大の森 内容：①講話 ②フィールドワーク ③講話 ④家族会議

九大の森フィールドワークとお弁当づくりから考えるSDGs

科学館を飛び出して、九州大学伊都キャンパスでフィールドワークを行いました。
九大の森の保全と開発に携わった矢原館長のお話の後、館長の案内で実際に九大の森を散策！
開発と保全両者をWin-Winの関係にした工夫を肌で感じるツアーになりました。
散策の後は竹内先生の「SDGs味噌汁クッキング」実演とともに、「料理」という切り口からSDGsについて考えました。
味噌汁のいい匂いでおなかがぺこぺこになったあとは、
各家族で作ってきた「SDGsお弁当」を紹介し合い、仲良くお昼を食べました。

①講話 ②フィールドワーク 世界をもっと良くしよう！九大の森散策ツアー！



講師
矢原 徹一先生

九州大学伊都キャンパスを作ったとき、もともとそこにあった森をまるごと引っ越しました。700種もの植物が生えていた森を引っ越した後、何%の植物が残ったと思いますか？答えはなんと100%！1種類も減らすことなく引っ越してきました。しかも費用も大幅に抑えることができました。
環境と経済の良好な関係を作り上げた工夫を実際に見るために、九大の森散策ツアーを実施。参加者はコンクリートとは違う、ふかふかの土の感触や生き生きと暮らす動植物を目の当たりにして、SDGs達成の大切さを改めて実感していたようです。



館長の講話「世界をもっと良くしよう」



九大キャンパス移転の概要説明



館長の解説を聞きながら九大の森を散策



いろんな生きものが住んでいる森でカエルを発見！

③講話 作って食べよう！SDGs弁当

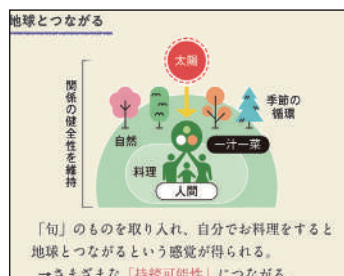


講師
竹内 太郎先生

「食べる」ことや「料理を自分で作る」こと、それだけで誰もがSDGsに関わることになります。竹内先生は教室にガスコンロとお鍋を持ち込み、SDGs味噌汁の作り方を実演・伝授してくれました。
「育てる/獲る人⇄食べる人の間には必ず「料理する人」がいます。料理をする人がそのつながりを考えられるようになると、様々な持続可能性につながります」と竹内先生。講演の後は各家族が工夫を凝らした「SDGs弁当」を紹介しながら楽しく食べました。



SDGs味噌汁の実演



「地球とつながる」お料理



家族それぞれのSDGs弁当



2023/10/15(日) 10:00～12:00 場所：福岡市科学館 内容：①ワークショップ ②対談 ③家族会議

海洋ごみを使ってアート作品を作ろう！

今回は講話に先立ち、海洋ごみを使ったアート作品作りに挑戦しました。
使う素材はしばたさんがビーチクリーンで集めたプラごみや漁師網。さらに、各家族がお家で出たごみを持ち寄り、それぞれ作品を作りました。「海洋ごみを食べてしまったカメ」「大きなサメ」「海洋ごみをしとめた魚」など、深いメッセージが込められた作品が出来上がりました。作品作りの後はしばたさんとKさんによる「どうしてアーティストになったのか」「どうして環境活動をしているのか」などについての対談を聞きました。
参加家族の子どもと年齢が近いこともあり、Kさんのお話は子どもにもストレートに響きました。
最後は家族で「自分の得意なことを活かして取り組めるSDGs」について話し合いました。

①ワークショップ 海洋ごみを使ったアート作品づくり

工作

②対談



講師
しばた みなみ先生

自分の得意な表現方法で伝えてみよう

アート活動を始めたのは、福岡市のビーチクリーンに参加したことがきっかけでした。当時トラック4台分くらいのごみが集まり、この現状を自分なりに表現できるアートという方法で伝えたいと思いました。今回のアートワークショップを通して、日常では捨ててしまうごみを、「どういう風に生かせるかな？」と考えることができたのではないかと思います。
自分の感じたことや思いを伝える方法は様々です。文章や音楽もその一つ。自分の好きな、得意な方法で表現してみてください。

身近な人に話してみよう！

ある日、歩いている時にふと川を覗くと、鳥の周りにごみがたくさん落ちているのを見つけました。「これって自分たちのせいなんだ」と思い、地域のための活動が好きだった私はビーチクリーンや環境活動を始めました。誰かが「環境活動に参加したい！SDGsのために取り組みたい！」と思うのは、その人の心が動いたときだと思います。環境活動に関心がない人たちにどう伝えと良いか悩むこともありますが、「まずは周りの人に聞いてもらう」など、身近でできることを続けることが大事だと思います。



講師
K.Kさん



伝えたいことをワークシートに記入



作品に込めた思いを発表



作品を通じて気がついたことをみんなで共有



家族でつくった海洋ごみアート作品

2023/11/5(日) 10:00～12:00 場所：福岡市科学館 内容：①講話 ②ディベート ③家族会議

ブラック校則とカカオから、見えなかった「つながり」に気づこう！

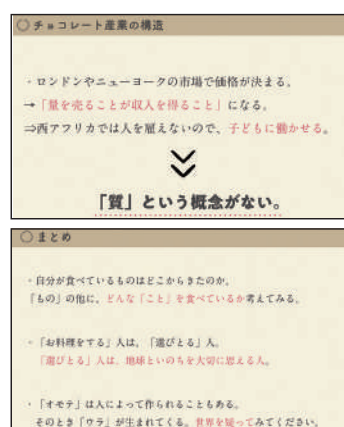
参加家族には、おうちで食べている食材がどこからきているのか、事前調査をしてきてもらいました。
その後、竹内先生から「そのたべもの、どこからきたの？」というお話をいただき、
私たち消費者と生産者の「つながり」について考えました。
次に、弁護士の後藤さんから「校則って何のため？」というお話をいただき、校則から人権について考えました。
講話の後、「ものごとを多数決で決めることに賛成か反対か」というテーマでディベートを行い、
相手の意見を否定せずに自分の意見も主張する大切さを学びました。

①講話I そのたべもの、どこからきたの？



講師
竹内 太郎先生

みんな大好きチョコレート。カカオの生産国であるアフリカでは、たくさんのカカオを作るために子どもも働いています。自分が食べているものはどこから来たのか、それをつくったり獲ったりしている人はどんな人か、考えることが大事です。
また、「お料理する人」は「選びとる人」でもあります。地球と命を大切に考えることのできる「選びとる人」になりたいですね。



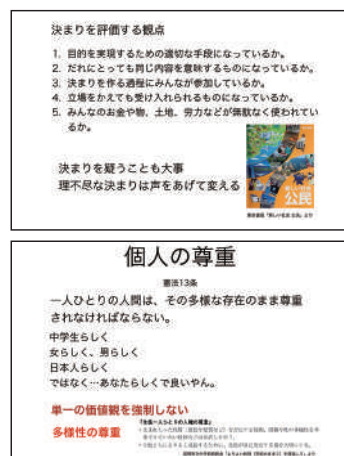
竹内先生の講話

①講話II 校則って、何のため？



講師
後藤 富和先生

「眉毛を整えてはならない」「中学生らしい髪型をしましょう」この校則、なんだかややもやしませんか？「男らしく」「女らしく」「中学生らしく」ではなく「あなたらしく」で良いんです。校則は「校則だから」守らなければいけないのでしょうか？ルールや決まりを疑い、理不尽な決まりには声を上げて変えることも大事です。
皆さんが様々な疑問や矛盾を感じる場面に会ったとき、なぜ違和感を感じたか、その理由をじっくり考えることが大切です。



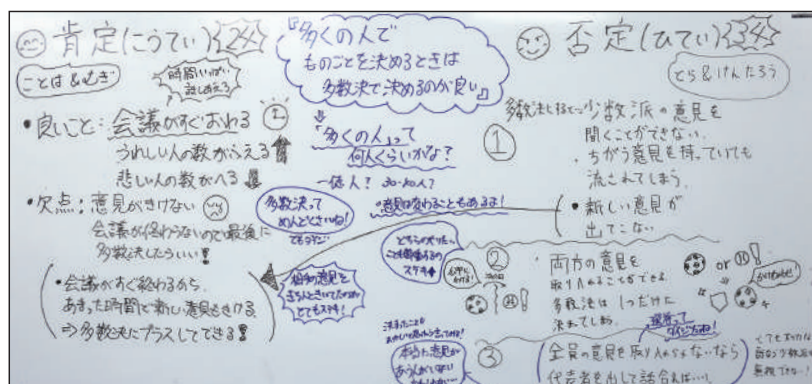
後藤先生の講話

②ディベート 相手の話を最後まで聞いた上で、自分の主張を伝える

坂口さんからディベートのルール説明を受けた後、「多くの人でものごとを決める時は多数決で決めるのが良い」というテーマについて、賛成と反対のグループに分かれてそう考える理由を説明しました。



「肯定派」と「否定派」に分かれてディベート



ディベートでは驚くほど沢山の意見が挙がった

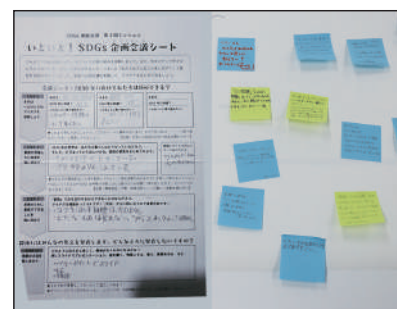
2023/11/19(日)、12/3(日) 10:00～12:40 場所：福岡市科学館 内容：家族会議

2030年の未来に向けて、家族でできることを考えよう！

いよいよ今回から、「2030年に向けて家族でできる取り組み」について、企画会議がスタート。
最終発表では、家族でできる取り組みをみんなに紹介するためのプレゼンテーションを行います。
プレゼンテーションの方法は自由!!
各家族の得意な表現方法で行ってまいります。
学生サポーターさんの力も借りて、発表準備を進めました。

家族会議 「最終発表にむけて、いざ家族会議！」

これまでの振り返りを行った後、家族のメンバー1人1人が自分の考えを伝え、最終的に家族でどんなことに取り組むかをまとめていきます。他の家族からフィードバックをもらう時間も設け、「こんな未来になったらいいな」という思いを実現できる取り組みを考えました。
各家族方針が決まった後は、最終発表のための準備を進めました。紙芝居を作ったりアート作品を作ったり、これまでの経験を存分に活かした発表になりそうです！



ワークシートを用いてブレインストーミング



学生サポーターの力も借りながら家族でできることを話し合う



発表に取り入れるポイントの説明



発表の表現方法を試行錯誤しながら進めた



工作も順調

最終発表会 笑顔あふれる未来のために家族でできること

2023/12/17(日)

10:00～12:40

場所：福岡市科学館

内容：最終発表

西村審査委員長より ひとこと



この取り組みのタイトル「SDGs家族会議」という「家族」を取り入れる考え方は矢原館長や関係者のアイデアから生まれたものです。いろんな人が交じり合うダイバーシティ・多様性の会ができたことを心から嬉しく思います。ぼくらがコンテンツを用意し、参加したみなさんと一緒に作っていく、いろんな人が集まることによって世の中は少しずつ変わっていく、変えていきたい。そしてその中心に子どもたちがいる。子どもたちは今は楽しいから参加しているだけかもしれませんがそれでいい。大人になった時に、昔、お父さんお母さんと科学館であんなことやったなあと思ひ出す。そういう積み重ねがあって人は伸びていくのです。大人だけ、会社、学校、国がやるような難しいものではなく、子どもを中心としたSDGs家族会議というのは唯一無二なものです。皆さんから始まって日本、世界に広がる活動だと思ってください。今日は発表自体もバラエティに富んだ、ダイバーシティなものになると聞かれています。この1日をみんなで楽しみましょう。



発表を前にそれぞれドキドキの家族たち



どんな発表が聞けるか楽しみな審査員たち

TN家

明日はSDGs賞

アパマン賞

サポーター 日下、梶原

意識した項目



「自分の知識を次の世代に伝えていく」

2030年に向けて私たち家族は、すべての人が人間として最低限の生活を送れるようになってほしいと思い、【目標1：貧困】について考えました。講座を通じて、取り組むテーマは1つでなくてよい、できることをひとつずつ、好きなことを活かして取り組んでみる楽しさを学びました。具体的に私たち家族にできることは「小学生に勉強を教える」、

「親子いけばな教室」、「理科実験セミナー」の3つです。ここでみんなで生け花をしてみましょう。このように、子どもでも次の世代に伝えていくことはできます。SDGsをやり続けるには楽しいと思えることが大切。今回は【目標1：貧困】を選びましたが、他の目標にも広げて幅広く考えながら活動を続けていきたいと思っています。



それぞれが自分にできることを考えました



剪定で捨てる草木も活用



参加者全員で生け花体験

感想

親だけ、子どもだけではなく、一緒に話す時間ができそうと思い参加しました。実際「これってSDGsではどうなの？」などの会話が、増え、成長できました。SDGsは特別なことではない！身近にきた！という感じです。今日は他の家族の発表に気づきもたくさんあり、私たちの活動も含めて周りに広がっていくことを願っています。

TN家

君はコペルニクス賞

アパマン賞

サポーター 梶原、元谷

意識した項目



「ごみを削減したい！」

漂着物を使った工作で海洋プラスチックの問題を知り、ごみがなくなしてほしいという思いを伝える作品「ごみのすけの涙」が生まれました。その後、SDGs17目標とごみの関係を調べてみると、例えば【目標3：健康と福祉】→ごみが減ると感染症も減る、【目標4：質の高い教育】→教育でごみは減らせる、など全てが繋がっていることがわかりました。その解決のために2つのことに取り組みしました。

- ①微生物の働きで土にかえる生分解性プラスチックを牛乳と酢で作ってみた
- ②「ごみ削減ドリカムシート」を考案
これから一番大切にしたいのは【目標17：パートナーシップ】で、一人→家族→地域→日本→世界にごみ削減の思いを伝え全てのいきものが幸せに暮らせるようにしたいです。ごみのすけの願いがみんなに届きますように。



作製した生分解性プラスチック



漂着物で作製したごみのすけ



17目標すべてがごみ削減とつながっている

感想

海洋ごみから作品を作った時に先生方からたくさんコメントをいただき自信とやる気につながりました。ごみ削減はみんなでやらないといけないと思いました。これまで家族でSDGsのような話はしたことなかったのですが、みんなで考えるようになりました。今日の発表はたくさん練習したので楽しかったしやりきったという気持ちです。

NM家

SDGsグッドデザイン賞

アパマン賞

サポーター 川岸、鐘ヶ江

意識した項目



「食べ物の消費者として考える」

私は、食べ物の消費者として【目標12：責任】を身近に感じました。学校での調理実習や家族会議での弁当作り、米作り体験などにチャレンジした後、家でできることはないか考えました。我が家は両親共働きの6人家族で食べ盛りの子どもが多いので、母はまとめ買いをし、使いきれずに野菜をダメにしてしまうことがあります。そこで私はみそ汁を作ってみることにしました。干から

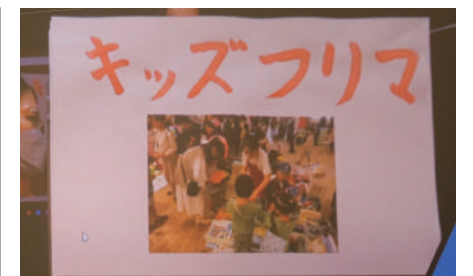
びた大根、芽が出た芋、残り物の餅など集めて作ってみると美味しくでき、その後も何度か作っています。また、使わなくなったおもちゃを「キッズフリマ」に出しました。次に使ってくれる相手の顔が見え、つながる嬉しさもありました。これからも家族で小さなことから始めて友達にも伝えて一緒に考えていきたいです。



スケッチブックで紙芝居形式の発表



残り野菜をみそ汁で美味しく活用



キッズフリマの売上8000円！

感想

九大の回で、材料の買物から弁当作りまでやったことが印象に残っています。みそ汁はお母さんのアドバイスを受けながら作り、話しているうちにお母さんは仕事もしてるので体力的につらいということがわかり、その後も何度か作るようにしています。今日は他の家族の発表での生け花体験が楽しかったので、教えてもらった折り紙の花器も帰ってから作ってみたいですね。

YN家

メンター賞

小さな研究者賞

アパマン賞

サポーター 和田、宗像

「SDGsハイブリッド生活」

この会議に参加して、これまで遠い存在だったSDGsについて実は身近にできることがたくさんあると気づきました。家族それぞれが自分の2030年をイメージし、関心の高かった「自然を守る」「健康を継続する」ことについて、できることを少しずつ楽しみながら続けていきたい、題して「ハイブリッド生活」をスタート。実際に取り組んだのは環境を意識したりリサイクル、健康維持の

ための無農薬野菜作りの他、周りも巻き込むSDGsの意識づけとして缶バッジを作成しました。缶バッジはコミュニケーションツールとして情報交換のきっかけにもなります。今後はSNSを活用した缶バッジ普及や取り組みの紹介をしてSDGsの活動を拡散していきたいと思っています。

意識した項目



それぞれ2030年の自分をイメージ



シェア畑で無農薬野菜作りに挑戦



17目標の缶バッジはコミュニケーションツール

感想

シュノーケリングをするので海の豊かさには関心がありました。家族共通のテーマとしては健康とプラスチックごみ削減で、キーワードとなるのは「持続可能」。無農薬野菜だけを買うのは無理があるので畑で野菜作りを始め、みそ汁は毎日作るようになりました。生活が明らかに変わり、いつかやろうと思っていたことを始めるきっかけになりました。

YM家

SDGsイノベーター賞

アパマン賞

サポーター 鐘ヶ江、日下

「SDGsのうらしまたろう」

山本家の考えたことを紙芝居『SDGsのうらしまたろう』で発表します。亀を助けたうらしまたろうが竜宮城に行くと、海が汚れていて魚たちも苦しそう。乙姫様に「過去へ行ってどうしてこうなったのか調べてきてほしい」と言われ、過去へ行く玉手箱を渡される。昔の砂浜に行くとうみがたくさん落ちていて、サナという女の子が

「ごみのポイ捨てが多い。砂浜だけでなく工場排水や生活用水で海も汚れているの。どうすればいいかな?」と聞いてきた。うらしまたろうは「風呂の水を洗濯に使ったり、トイレの水を節約などすれば生活排水が減るよ。まずは砂浜のごみを拾おう」と言い、周りの人も協力するようになった。みんなが少しずつできることをしよう。竜宮城に戻ると海がきれいになっていた。

意識した項目



得意な絵を活かして紙芝居で発表



制作も発表も役割分担しながら



お話を上手に読み聞かせ

感想

もともとSDGsの絵本を読んだことがあり関心を持っていました。九大の森の回で、森林を削ることが破壊ではなく保全につながるなどたくさん学んだ中で、浦島太郎というアイデアと大好きな絵を活かして、台本、下書き、塗り絵を家族で役割分担して紙芝居にしました。今後も17目標を暗記して無農薬野菜を意識したり、ごみ削減に取り組んでいきたいです。

YU家

館長賞

未来のファンタジスタ賞

アパマン賞

サポーター 宗像、和田

「できることをコツコツと、考えることを止めない」

漂着物の工作で、海洋ごみはアートにできることが心に残りました。実際私もビーチクリーンをしてみると、思った以上にごみが落ちていて悲しくなりました。そこで吉内家では【目標14：海の豊かさ】について、漂着物と家で使わなくなったものを利用した作品『ももちはまたろう』で発表します。はまたらうがビニール袋に引っかかった亀を助け、御礼に竜宮城に

連れて行ってもらおうと海は汚れ、魚たちは元気がありません。亀は「一度汚れた海をきれいにするのは大変だ」という話をします。はまたらうが家に戻ってエコバッグ、壊れたら修理するなどを続けているうちに仲間も増えて2030年の海はきれいになりました。私も、日々できることをコツコツと、考えることを止めないで上げていきたいと思っています。

意識した項目



テーマ選びの理由を説明



プラスチックごみで汚れた竜宮城



審査員もビーチクリーンを体験

感想

SDGsのことはあまり知らなかったのですが、家族で話すいいチャンスと思い参加しました。九大の森を歩いたり、漂着物アートを体験したりして、マイボトル・マイバッグ持参や「今日は歩いて行こう」などと話すようになりました。これまで家族で一つのものと一緒に取り組む、同じ目標に向かうことはなかったので、とても楽しい経験になりました。

WD家

福岡市科学館賞

グッドストーリーテリング賞

アパマン賞

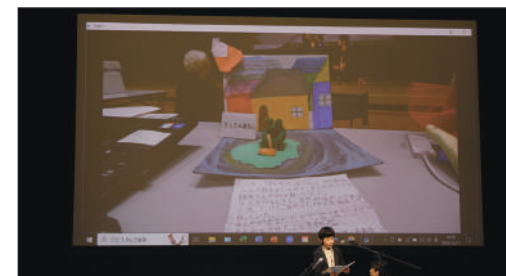
サポーター 元谷、川岸

「心をつなぐ方法をみつけよう」

館長のお話では、知識のある人たちが話し合って九大建設と自然保持を両立したこと、漂着物の工作では、人や心をつなぐ方法は言葉だけでないこと、カカオの児童労働の話では、分け合ったり交換する仕組みがうまくできていないと貧困や不平等が生まれ、人間の嫌な感情が出てしまうことを知りました。そこで、僕はいい感情を引き出す方法を考えてみました。

・将来、折り紙の技術を使って、畳むと小さくて開くと大きくなる移動科学館車を作り、みんなが科学館を体験できるようにしたい
・心をつなぐ方法として音楽を選び、カレー屋さんでミニミニオカリナ会を始めました。美しい音色はストレートに心を動かします。演奏を続けることで、知識、地球全体が仲間だと思える気持ちを波紋のように広げられるかもしれません。～オカリナ演奏～

意識した項目



知識や思いが波紋のように広がってほしい



心を動かすオカリナの演奏



思いを表現する作品たち

感想

以前、中村桂子先生のWSを受講してSDGsに興味をもち、周りに広めていくことが大事だと感じていました。活動に参加した日は毎回振り返って家族で話そうにしていた。漂着物アートの回は楽しかったし、SDGsに関連したテレビ番組もよく見るようになり、どんどん楽しくなりました。子どもたちが中心になって未来のあり方を一緒に考えていけたのがよかったです。

各賞について

最優秀賞 福岡市科学館賞

7つの審査ポイントを総合し、最も評価が高かった提案

優秀賞 ・館長賞 ・メンバー賞

実現性

『明日はSDGs賞』

「これは確かに実現しそうだ」
と納得できるか

共感性

『SDGsグッドデザイン賞』

「なるほど！たしかにそうだ」
「わたしもやってみたい！」と
どのくらい共感できるか

想像力

『未来のファンタジスタ賞』

ファンタジスタはイタリア語で「夢を与える人」。
世界や未来、社会を想像して、
そのつながりを大切にしていると
感じられるか

創造力

『SDGsイノベーター賞』

自分たちらしさ(好きなことや
得意なことなどを活かして、
独自の視点でクリエイティビティが
発揮されているか

探究心

『小さな研究者賞』

興味のある内容について、
調査や実験、実践と分析など、
テーマを深めるような取り組みが
なされているか

ユニーク性

『君はコペルニクス賞』

プレゼンテーションに
オリジナリティがあり、
新しい発想や手法での
プレゼンテーションとなっているか

コミュニケーション力

『グッドストーリーテリング賞』

プレゼンテーションにおいて
一方的な発表ではなく、
聞く人の心が動くような
工夫がされているか(話し方、手法など)

つなげる力

『アパマン賞』

がんばった全参加家族へ

審査員

西村 俊彦 福岡市科学館顧問、
SDGs家族会議審査委員長

矢原 徹一 福岡市科学館館長、
九州大学大学院理学研究院名誉教授

江口 久美 九州大学持続可能な社会のための決断
科学センター特任助教、九州オープン
ユニバーシティ研究部研究員

高木 正太郎 福岡SDGs協会代表理事

しばた みなみ アーティスト/描いてつくるヒト

後藤 富和 福岡県弁護士会校則プロジェクトチーム
委員

竹内 太郎 九州オープンユニバーシティ学術研究員

小川 将弘 アパマン九州事業本部部長

学生サポーター 一同

※敬称略、順不動

学生サポーターからひとこと

初めて顔合わせをしたとき、色々なタイプのお子さんやご家族がいて、「最後の発表みんなできるかな」と少し不安に思っていたのですが、最終発表では全家族堂々と発表していて、とても驚きました。今回の家族会議の中で大事にしていた4つのルール「①最後まで聞く②話し手の言いたい意図や主張に耳を傾ける③否定をしない④過去にとらわれない」を今後も家族内で大事にしていけたらいいなと思います。

梶原悠矢

インタビューや実験の報告、楽器の演奏、人形劇、くすっと笑える紙芝居など発表の仕方も工夫されていて心惹かれました。そんな独自性があり人に伝わる発表は、各家族が話し合いとコミュニケーションを重ねたからこそできたのではないかと感じました。家族会議は、意見交換の際にお互いの意見を尊重する(対等に話し合う)ことを目標の1つとしていて、私自身も今回の経験を他者との話し合いで活用したいと思っています。

鐘ヶ江正恵

発表は緊張したと思いますが、皆さん準備の段階から前向きに、そして楽しそうに取り組んでいる姿がとても良かったです。参加してくれたお子さんたちは今小学生で、大人になるにつれてやらなければいけないことが増えていきますが、それだけにらずに、楽しく前向きに取り組めるものを見つかることができれば、楽しく生きていけると思います。今後も一緒に頑張っていきたいです！

川岸勇介

第一回家族会議が始まってから最終発表までの間、皆さんがどんどん成長されている姿をみてきました。最終発表は、みなさんが各回の講師の先生のお話を吸収して、普段何気なく生活しているだけでは考えもしないような、踏み込んだ内容でした。発表を聞いている私もすごく楽しかったです。ありがとうございました。

S.K

参加家族の親御さんから、「子どもってこんなことも考えられるんだ」というような驚きの声がたくさん聞こえてきました。SDGs家族会議は、そういう体験を与えてくれるありがたい会議だったなと感じています。今後もいろいろなイベントに参加して、たくさんの事を学んでもらえたらうれしいなと思います。

日下尚大

皆さんの発表を聞きながら、九大の森に行ったなとか、工作頑張ったなとか、これまでの活動が楽しい思い出として蘇ってきました。驚いたことは、皆さん一人一人が自分の声で発表していたことです。人前で話すことはとても緊張しますが、この経験が今後きっと役に立つと思います。今回のSDGs家族会議で学んだことがすぐに役立つとは限りませんが、1年、5年、10年先に必ず生きてくるので、今後も一緒に頑張っていきたいです。

宗像穂乃香

発表準備の段階で、僕の大好きな音楽を使ったり、第3回に制作したアート作品が登場したりと、どのご家族もアイデアを出しながらまとめあげていく様子を見ることができました。発表会には参加できなかったですが、個性溢れる素晴らしい発表会だったと聞いています。サポートする立場ではありましたが、先生方の講話はもちろん、話し合いや発表にはいつも発見や気づきがあり、それを僕自身も研究や発表に活かしていきたいです。

元谷臣吾

どの家族も発表がとても素晴らしかったです。それだけではなく、準備の段階から家族全員で協力していることが今日の発表を見て伝わりました。私自身、参加できなかった回がありましたが、最終発表を見届けることができて本当に良かったです。ありがとうございました。

Y.A

はじめはSDGsについて「難しい」という言葉が多く聞かれましたが、発表に向けてどの家族も身近なところから自分たちらしい取り組み方を見つけていて私自身も良い刺激をもらえました。事前準備から本番までどの家族もチームとして共通の目標を達成しようという姿勢は「家族会議」そのものでした。SDGsの達成に向けて、自分も身近なところから課題を見つけ、解決に向けて小さな輪を広げていきたいと思っています。

和田香里

さいごに

SDGs家族会議 in FUKUOKA(第3回)を振り返って



令和5年12月17日、第3回SDGs家族会議の発表会を福岡市科学館で聞きました。参加家族の皆さん、関係者の皆さん、ご苦勞様でした。今年は7家族の参加。家族毎に自分の家族のSDGsテーマを決め、家族で探求し、思いを込めた素晴らしい発表を披露してくれました。

発表会までの3ヶ月間、ワークショップやフィールドワーク等の体験をしながら家族の話し合いを重ねました。発表内容は家族それぞれの個性とアイデアにあふれ、表現方法も紙芝居や模型、オカリナ演奏などを駆使し多様で創造性に満ちていました。全家族に共通して「2030年の地球を良くしたい」という思いが満ち満ちていました。子どもたちの伸びしろと親子連携には驚きました。だからこそ、難しかったワークショップを上手に進行し、モチベーション維持と安全確保などに配慮したファシリテーター、サイエンスコミュニケーター、学生サポーターのチームワークに感謝しながら見ていました。その陰に中学生、大学生、院生、保護者たちの思いが明確に見えました。まさしく家族会議であり地域コミュニティ会議の場でした。SDGs家族会議を通じて学び、気づく機会を得たのは、子ども達だけでなく家族全員と我々だったと思います。

審査委員長 西村 俊彦

SDGs家族会議を終えて



「SDGs」「家族」「会議」。どれも人が豊かに生きるために必要な言葉でありながら、それは多様な価値観によってさまざまに解釈されるもの。このプロジェクトは、答えのない問いに向かって、子どもも大人も一緒に向き合える場として、私にとってもとてもわくわくするものでした。プロジェクトが進行するにつれて、講師の方々、学生サポーターや事務局の方々など、関わる人が増え、言葉の意味が深まり、発見と学びの連続で、みなさんの考えやアイデアに触れられて、本当に楽しい「会議」でした。最終プレゼンの時には、チームごとの個性が光り、「家族」だからこそできた工夫に満ちた発表で、それを見守るサポーターのみなさんの表情も含めて、熱気を帯びた会場の風景は大切な思い出の1日となりました。

参加したご家族のみなさんはいかがでしたでしょうか？今後も考え、語り合うことを大切にしてもらえたら嬉しいです。そのことが何よりも「持続可能な」未来につながっていると思っています。

ファシリテーター 坂口 麻衣子



SDGs家族会議 in FUKUOKA事務局

西村 俊彦	福岡市科学館 顧問, スタンフォード大学医学部麻酔科・創薬医療機器開発研究所 所長
江口 久美	九州オープンユニバーシティ研究部 研究員
坂口 麻衣子	ワークショップユニットnina nino
吉武 秀平	福岡市科学館 事務局長
上田 恭子	福岡市科学館 事業推進責任者
高山 裕明	福岡市科学館 事業推進スーパーバイザー
西澤 息吹	福岡市科学館 サイエンスコミュニケーター
板垣 早織	福岡市科学館 企画
崎山 祥子	福岡市科学館 広報

※敬称略、順不同

第2回SDGs家族会議(2022年7月～12月)の報告は
ホームページで公開しています。こちらの概要ページをご覧ください。→

